

迷ったルートは推測

至：
十文字峠

発見場所

77歳単独。支尾根に迷い込み、沢に出た。そのまま沢を下ったが、途中で動けなくなり、4日目に偶然釣り師に発見された。

柳避難小屋から赤沢谷出合の間で転倒して2 mほど滑落し、右大腿部を打撲。ストックにすがりながら下山したのだが、今度は支尾根に迷い込み沢に下りてしまった。沢に下りるとき岩場を2 mほど飛び降りたため登り返すことができず、危険があることを知りつつ沢を下った。沢の中でも転倒したり、水没したりして疲れ切ってしまい、ビバークを決意。2日目に「SOS、股ノ沢、救助乞う」のメモを川に流す。幸い、「SOS」のメモを釣り師が発見し、遭難者を発見した。奇跡的な救助であった。（本文参照）

柳避難小屋から赤沢谷出合いまでの転倒、打撲といったアクシデントにより冷静さがなくなり支尾根に迷い込んだ可能性は高い。

正ルートはトラバースで急な下りはないので、沢に降りたときに「あっ？おかしい？」と思っただろう。しかし、道迷いの心理はこの行動を止められない。単独行という要因も大きく加わっていると思われる。また、年齢的にも動き回ることは難しいので、発見・救助されたことは奇跡というほかない。